

2021(令和3)年度 事業実績報告書

2021(令和3)年4月1日から2022(令和4)年3月31日まで

特定非営利活動法人おきなわCAPセンター

I 事業の成果

前年度に続き、2021年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、様々な影響を受けた1年となったが、前年度の経験を踏まえ、工夫と知恵を駆使して各事業を実施することができた。6月から9月の長期に渡る緊急事態宣言に伴い、予定していたワークショップが中止される等、提供事業の回数は減少したが、思春期プログラム、おとなワークショップにおいては、オンライン配信を可能な限り取り入れ、安心安全な環境で実施することができた。また、7年ぶりにCAPスペシャリスト養成研修を開催し、小学校でCAPプログラムを実践する専門家を17人養成することができた。さらに、沖縄県からの受託事業(子ども虐待防止講演会・CAPワークショップ、児童養護施設職員向け研修、法定義務研修、ワンストップ研修)は、オンラインを中心に、県民・一般向けと、専門職向けに各種研修会、講演会を提供することができた。また、コロナ禍で孤立が懸念される子どもたちへ向けて、児童虐待を防止するためのLINE相談事業を受託し、SNSを活用して子どものSOSを早期に発見する取り組みを行い、年間を通して県内の小学生から18歳までの子どもたちの相談を受けた。相談内容に応じて専門機関へ繋ぎ、子どもへの虐待の早期発見と早期対応を行った。厳しいコロナ禍において、これまで以上に多岐に渡る事業を精力的にやり遂げた2021年度であった。

(1) 子どもへのCAPワークショップ(暴力防止プログラム)等提供事業

31回のワークショップ提供

感染防止を徹底しながら、小学校や幼稚園、保育園で子どもワークショップを31回提供することができた。市町村との協働事業として、継続9年目の北中城村(児童虐待防止緊急対応強化事業)、7年目の宜野湾市(子どもへの暴力防止事業)も、コロナの影響で学校が休校になる等、実施回数は減少したが、何とか日程を調整して実施することができた。学校がコロナ対応に追われる厳しい状況下で、小学校6校、就学前2園でCAPプログラムを実施した。

デートDVの予防・啓発の取り組み35回

思春期の人間関係づくりを通してデートDV予防を考える「思春期の心と体プログラム」を市町村からの受託事業を中心に県内の中学校で35回実施し、約6000人の中学生に届けることができた。将来のDV防止とデートDV予防を目的に、那覇市(「思春期の心と体」のための意識啓発事業)13中学校(15回)、うるま市(思春期の人権とデートDV)9校、宜野湾市(デートDV予防啓発出前講座)市内3中学校、浦添市(デートDV予防講座)5校で実施することができた。北中城村1校では児童虐待防止事業として実施した。感染防止の観点から、密を避けるための対策として学級単位で開催する等、学校の要望に応じて柔軟に対応したことで一定の評価を受けた。同プログラムを通して、思春期の子どもへ、自分の気持ちを大切にすること、非暴力な人間関係づくりのヒント、デートDVについて

での知識、困った時、悩んだ時の相談先を伝えることができた。また「放課後タイム」に来室した子どもの質問や相談にも丁寧に対応することができた。その他、学校単独の申し込みにより、初開催の2校でも実施した。

(2) おとなへのCAPワークショップ(暴力防止プログラム)等提供事業

31回のワークショップ提供

2021年度は、おとなワークショップを、保育園、幼稚園、小学校、学童クラブ、大学、市町村、児童養護施設、他関係団体等、31回提供することができた。会場開催時は感染対策を徹底して実施。状況に応じてオンライン開催も含め、県内各地で、主に子ども・保護者を支援する立場の方や専門職に向けてCAPの考え方と子どもの人権、暴力防止方法について伝えることができた。また、おとなワークショップ実施後に、子どもワークショップ実施に繋げることができたケースもあった。

市町村との共催ワークショップ

「子ども虐待防止推進事業」の一環で、県内10市町村(那覇市、豊見城市、南城市、読谷村、嘉手納町、石垣市、うるま市、今帰仁村、沖縄市、伊是名村)で「子どもを暴力から守るために」をテーマにCAPワークショップを実施。コロナ禍で子ども虐待・DV等の暴力が増えている中、人権意識とエンパワメントを核に、子ども虐待のない地域を目指す目的で、子どもへの暴力防止についてともに考え、連携し、行動に繋げるための機会を提供することができた。

児童養護施設等へのワークショップ

沖縄県から「児童養護施設職員等資質向上支援事業」を受託し職員向けの研修会を実施。11年目となる今年度は、「子どもの権利を守るために一叱らないこども支援“キッズスキル”」をテーマに掲げ実施。子ども支援の幅を広げるために「キッズスキル」の手法を伝えるとともに、改めて子どもにもおとなにも大切な「安心・自信・自由」の権利について考える機会とした。

(3) ワorkshop提供のための人材育成事業

CAPスペシャリスト養成研修

子どもへの暴力を防止するためのCAPプログラムを実践する専門家を養成する「スペシャリスト養成研修」を7年ぶりに沖縄で開催。J-CAPTA 木村里美さん、矢島宏美さんを講師に迎え、10月基礎編、12月実践編、計40時間の研修を行い、17人のスペシャリストを養成することができた。今後の活躍が期待される。

研修派遣

沖縄県子ども虐待防止推進事業の業務の一環として、神奈川県で開催された日本子ども虐待防止学会に参加した。

内部研修会(トークタイム研修)

J-CAPTA 木村里美さんを講師に、トークタイム研修を10月と12月に開催。子どもから暴力に関する相談を受けた際、適切に学校、児童相談所、専門機関へ繋げるために全国トレーナーによる最新情報を学ぶことを目的に開催。子どもたちからの質問や、復習をする際のポイントと、話の聴き方、学校への繋ぎ方について全国トレーナーから学び、演習を交えて理解を深めることができた。

思春期プログラム実践者養成講座

デートDV 予防を通して思春期の人間関係づくりを考える「思春期の心と体プログラム」を実践する人材を養成するための基礎講座2回をオンラインで3月に開催。おきなわCAPセンター所属のCAPスペシャリスト10人が受講した。(基礎講座③と実践講座は翌4月開催)

定例会・練習会

定例会は、ワークショップの振り返りとプログラム内容の確認等、メンバーのスキルアップと交流を目的に実施している。今年度はオンライン開催も含め6回実施し、ワークショップやトークタイムについて意見交換しながら疑問や課題を解消し、ステップアップに繋げることができた。また、ワークショップ実施前には、必要に応じて打ち合わせと練習会を実施し、情報を共有してメンバーが安心して本番に臨めるよう努めた。

(4) 子どもへの暴力防止についての学習・啓発事業

子ども虐待防止推進事業

沖縄県から受託し10年目。年を重ねるごとに幅広く県民へ子ども虐待問題を身近なこととして捉えてもらい、関心を持つきっかけを提供することができている。2021年度は全てオンライン配信となり「がんばりすぎない子育てのススメ」「児童虐待の取材を通して」「虐待・暴力が子どもに与える影響」3つのテーマで各分野の専門家を講師に、児童虐待防止推進月間を中心に開催。様々な立場の約1,300人に参加してもらうことができた。

宜野湾市子育て講座プログラム事業

コロナ禍の影響で昨年度実施ができなかった「宜野湾市子育て講座」を週1回の3回オンライン配信による連続講座として1クールずつ7月と2月の2回開催した。CAPの理念を基本としたプログラム構成から講師まで、おきなわCAPセンターメンバーで行った。オンライン機能のチャットやブレイクアウト機能等を活用し、遠隔状態であっても可能な限り参加できるよう工夫し運営。また、講話終了後は「交流タイム」を設け、参加者同士が子育ての不安等を共有する機会も提供出来、自己肯定力、周りにつながる力、相談する力を育む場となっている。地域の子育て支援の一助となるプログラムを提供することができた。

(5) 地域ネットワーク事業

行政、民間団体とのネットワーク強化

地域ネットワーク事業は「那覇市要保護児童対策協議会代表者会議及び実務者会議」、「那覇市子ども政策審議会」、「沖縄県子どもの未来県民会議」、「沖縄県子ども子育て会議」、に理事やメンバーが出席し、子ども・子育てを支援する関係機関との連携を図った。また「公認心理士会主催研修」「子どもの権利尊重・虐待防止シンポジウム」「那覇市円卓会議」への講師依頼があり、それぞれメンバーが登壇し、広く対象者へ CAP の取り組みを伝えることができた。

児童養護施設職員等資質向上支援事業

各施設でのCAPワークショップ提供（提供事業に記載）の他、外部講師を起用し支援ケースについて検討するSV（スーパーヴァイズ）研修を実施した。これまでの講師砂川純子さん（元県職員・沖縄キリスト教学院大学 講師）、野村れいかさん（九州大学講師）、本村真さん（琉球大学教授）に加え、新たにさん川満恵子さん（看護師・保健師・助産師）、上原秀猛さん（臨床心理士・公認心理士）を講師に迎えて、より専門性を高める情報と適切な助言等研修を通して提供することができた。また、今年度より社会的養護の支援拡充を目指した国の取り組みの一環として「高機能化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」および「小規模かつ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」を実施。「高機能化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」では、本村 真さん（琉球大学 教授）、堀田洋さん（南山病院 精神科医）、島袋裕美さん（元児童相談所所長、沖縄女子短期大学 講師）、石橋孝勇さん（琉球病院 精神科神経科 精神科医）、城間直秀さん（発達神経クリニックプロップ 精神科医）を迎え、より専門的な情報提供を行った。また「小規模かつ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」では、講師に上原 裕さん（児童養護施設 石嶺児童園 施設長）、仲松 美智子さん（ファミリーホーム 仲松ホーム）、砂川 恵正さん（元児童相談所所長、児童養護施設 なごみ 参与）、遠藤洋二さん（関西福祉科学大学）、糸満英子さん、松岡義幸さん（児童養護施設 美さと児童園 職員）を迎え、演習を用いながら、実際の支援で見た課題や対応方法について検討する機会となった。

児童虐待対応職員等法定義務研修

本事業では、主に市町村の要保護児童対策地域協議会の運営を行っている市町村職員を対象とした「要保護児童対策調整機関専門職研修（以降：要対協研修）」および児童相談所の職員を対象とした「児童福祉司任用後研修」を実施。要対協研修の講師には、講師はこれまで同様、佐和田ゆかりさん（児童心理治療施設ノアーズガーデン）、砂川純子さん（元県職員、キリスト教学院大学講師）、安部計彦さん（西南学院大学教授）、城間園子さん（琉球大学准教授）、島袋裕美さん（元児童相談所所長・沖縄女子短期大学講師）、賀数いづみさん（県立看護大学教授）、山野良一さん（沖縄大学教授）、鈴木秀洋さん（日本大学准教授）を招聘し、新たに城間直秀さん（発達神経クリニックプロップ 精神科医）を招聘し実施した。任用後研修においては、これまでの講師砂川恵正さん（元県職員）、横江崇さん（弁護士）、松山清一郎さん（弁護士）前川英伸さん（美さと児童園施設長）、金城正典さん（元那覇少年鑑別所所長）、安部計彦さん（西南学院大学）、鈴木秀洋さん（日本大学准教授）を招聘。また新たに杉山春さん（ルポライター）、砂川純子さん（元県職員、キリスト教学院大学講師）を迎えた。全日程オンライン開催となったが、県内外から講師を招聘し、幅広い情報提供の機会となった。

性暴力被害者のための支援機関従事者研修

各関係機関の従事者が被害に遭われた方の心情や適切な対応等について理解を深め、互いに連携を図る必要があることから、性暴力被害者の支援、子どもの性被害、性暴力被害者ワンストップ支援センターについて理解を深める研修会を実施した。講師に、山田和枝さん（沖縄県女性力・平和推進課班長）、三浦耕子さん（産婦人科医師）、川口真澄さん（小児科医師）を招聘し、専門職に向けた研修を提供することができた。

児童虐待を防止するための LINE 相談

児童虐待の防止及び早期発見に繋がる目的で、沖縄県が子どもたちが困りごとや悩みごとを相談できる体制を強化するために SNS (LINE) を活用した相談窓口を開設。一昨年 of 試行事業受託に続き、1 年間受託することとなった。悩みを抱えた子どもたちに真摯に向き合い、必要に応じて専門機関へ繋ぐこともできた。また年末年始に連日相談日を設けたり、月に一回 LGBTQ 相談日を設置するなど、幅広く対応した。

(6) 会報等の発行事業

活動の報告を兼ねた『CAP つうしん』を 2 回（7 月と 1 月）発行し、会員と関係機関へ届けた。また、インターネットを活用して、ホームページとフェイスブック、事務局長ブログを随時更新し、講座や講演会、ワークショップの案内や報告を行うなどの情報発信に努めた。

そのほかメディア：マスコミ等への対応

これまで同様に、機関紙『けーし風』へ、子ども支援に関する原稿を寄稿した他、コロナ禍での子どもとおとなの人権を守る視点から、新聞への寄稿を積極的に行った。また、琉球新報社子ども新聞『りゅうぼん』から子どもの権利尊重と CAP の活動について、沖縄タイムス社から SDGS についての取材依頼があり対応した。

(7) その他、目的を達成するために必要な事業

なし

特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施場所	従事者数 (人)	受益対象者 (人)	支出額 (千円)
子どもへのCAPワークショップ (暴力防止プログラム) 提供事業	小学生ワークショップ	29回 ・宜野湾市:4校(嘉数、大謝名、はごろも、普天間) ・北中城村:1校(北中城) ・沖縄市:1校(室川)	149	743	2,728
	就学前ワークショップ	2回 相愛幼稚園、こくら保育園	14	56	
	中高生ワークショップ	—	0	0	
	スペシャルニーズプログラム	—	0	0	
	その他(施設、学童等)	6回 ひだまり学童 CLUB(6グループ)	18	87	
	思春期プログラム	35回 ・那覇市立中学校:13校 15回(石嶺、小祿、金城、神原、鏡原、古蔵、仲井真、那覇、松島、真和志、安岡、首里、松城) ・宜野湾市立中学校:3校(嘉数、普天間、宜野湾) ・北中城村立中学校:1校(北中城) ・うるま市立中学校 9校 (石川、伊波、具志川、高江洲、与勝第二、与勝、具志川東、彩橋、あげな) ・浦添市立中学校:5校(浦添、仲西、浦西、神森、港川) ・中城中学校 ・名護市立緑風学園	93	6613	
おとなへのCAPワークショップ 提供事業	おとなワークショップ(保育所、幼稚園、学校)	1回 宜野湾市立普天間小学校	2	25	
	教職員ワークショップ	3回 相愛幼稚園、児童デイまはろ、こくら保育園	7	31	
	その他 連携機関、大学、児童養護施設等	23回 ・連携機関:8か所 (沖縄県里親会、NPO法人ちゅらゆい、LINE相談員研修、沖縄県家庭相談員連絡協議会、ひだまり学童 CLUB、放課後連沖縄、社会貢献支援財団、なは女性センター) ・市町村等行政機関:10か所 (那覇市、豊見城市、南城市、読谷村、嘉手納町、石垣市、うるま市、今帰仁村教育委員会、沖縄市教育委員会、伊是名村)	61	630	

		・児童養護施設等:4か所 (袋中園、美さと児童園、ならさ、漲水学園) ・大学:1か所(沖縄国際大学)			
	本の販売	適宜		—	
人材育成 事業	養成研修	CAP スペシャリスト養成研修(基礎編) CAP スペシャリスト養成研修(実践編)	40	34	1,262
	研修派遣 (県内外)	子ども虐待防止学会他		—	
	内部研修	3回 トークタイム研修(10月、12月) 思春期プログラム実践者養成講座(3月)		24	
	定例会	6回		66	
	練習会	随時		—	
子どもへの暴力防 止について の学習 啓発事業	主催講座	2回(オンライン)	4	28	3,976
	沖縄県子ども 虐待防止推 進事業	3回 ・虐待防止講演会(オンライン) 講師:ちやい文々さん、杉山春さん、松本俊彦 さん	12	1335	
	宜野湾市子 育て支援プロ グラム事業	2回 ・1期7月(全3回)オンライン ・2期2月(全3回)オンライン	23	59	
地域ネッ トワーク事 業	地域ネットワ ーク会議	9回 ・那覇市要保護児童対策地域協議会代表者 会議・実務者会議① ・同会議② ・同会議③ ・那覇市こども政策審議会① ・那覇市こども政策審議会② ・沖縄県子ども子育て会議 ・公認心理士会主催研修 ・子どもの権利尊重・虐待防止シンポジウム ・那覇市円卓会議	9	—	6,890
	インターン受 け入れ	4回 ・那覇看護専門学校 3回 ・具志川看護専門学校 1回	9	49	
	児童養護施 設職員等資 質向上支援 事業	23回 ・SV研修6回:石嶺児童園、島添の丘、袋 中園吉水寮、ノアーズガーデン、愛隣園、若夏 学院 ・高機能研修5回 ・小規模化研修8回	33	283	

	児童虐待対応職員等法定義務研修	39コマ ・要対協研修(全19コマ) 8月、9月、10月、11月開催 ・任用後研修(全20コマ) 8月、1月、2月開催	36	878	
	性暴力被害者支援従事者研修	3回 8月6日(2コマ)、10日(1コマ)	10	738	
	その他	ノアーズガーデン調査協力	4	32	
	児童虐待を防止するためのLINE相談事業	1回 期間:5月~3月	187	936	10,624
会報等の発行事業	会報の発行	年2回	6	600	97
	ホームページ等	随時 事務所	3		
	その他メディア	『けーし風』寄稿(2回) マスコミ対応(適宜)	3		
その他、目的を達成するために必要な事業	なし				

※上記事業のほか、総会1回、理事会3回 事務局会議50回、労務・税務など。